



# 客観性の高いマネジメントシステムの運用

環境マネジメントが効果的かつ適切に運用されるよう、内部および第三者機関による定期的な環境監査を行っています。また、グローバル環境監査や国内グループ会社環境連絡会を実施し、グループ全体での環境活動を進めています。

## 環境活動方針

### 経営理念 (1998年8月改定)

3. 社会の一員として、法と倫理を遵守し自然・地域と共生する企業をめざす。内容はP.1を参照



### 社員行動指針 (1998年8月改定) 全7項目より抜粋

経営理念に基づき、社員は会社と一体となって自然保護と社会活動へ貢献します。



### 環境スローガン (1999年4月制定)

人と車の調和をめざし、企業活動に伴う環境負荷の低減を図ります。



## 環境方針

### 1 経営理念、社員行動指針に基づき環境への取り組みを進めます。

■**主な取り組み項目** 地球温暖化防止、省資源・リサイクル・廃棄物低減、化学物質管理等  
新環境技術の積極的な導入、開発

### 2 法・地域や顧客との約束を守り、さらに自主目標を定め、環境汚染の未然防止を進めます。

### 3 環境委員会を設置し、継続的な環境改善活動を展開します。

## マネジメント

### ISO14001 認証取得

東海理化では、客観性の高いマネジメントシステムを構築し、活動を推進することを目的に ISO14001 認証取得に取り組んでいます。国内だけでなく、海外連結子会社 18 社中、15 社が認証取得しています。

※詳細は P.3 を参照

## マネジメント

### 環境関連法対応

各種環境関係法について、全社の順守状況を定期的にチェックしています。新規規制情報については、法主管部署が情報の把握を行い、関連部署に速やかに情報展開する仕組みを整備しています。

また、違反・苦情ゼロ活動の強化を進めており、環境ヒヤリの報告・速報展開により、ヒヤリの情報が入り次第、現地確認を実施。対策完了まで迅速に対応しています。また、速報を各環境委員会の事務局へ展開する事により、類似する環境ヒヤリの未然防止に役立てています。

マネジメント

取り組み体制

環境保全活動を企業活動の重要なテーマの一つと捉え、グループ全体での活動を推進しています。社長を委員長とする全社環境委員会のもと、各地区や機能別に環境委員会を設置。また、重点的に取り組む項目にはプロジェクト・分科会を設置し、迅速かつ効果的な環境取り組みを実施できる体制を構築しています。

全社環境委員会

委員長 取締役社長 牛山 雄造  
 副委員長 取締役副社長 土屋 隆興  
 全社環境管理責任者 専務取締役 恒川 清  
 全社副環境管理責任者 取締役 中村 弘之  
 委員 会長、各環境委員会委員長

製品環境委員会

- 鉛フリーはんだ切替推進プロジェクト
- ELV STEP2プロジェクト
- IMDSプロジェクト
- VOCプロジェクト
- REACHプロジェクト
- 品質保証プロジェクト

生産環境委員会

- 本社工場環境委員会
- 豊田工場環境委員会
- 音羽・萩工場環境委員会
- 輸送合理化分科会
- 省エネ改善分科会

本社部門

- 事務棟環境委員会
- VCセンター環境委員会
- モノづくりセンター環境委員会
- グリーン調達委員会
- グローバル環境会議
- 国内グループ会社環境連絡会
- 環境報告書分科会

(2010年7月改訂)

マネジメント

環境監査

ISO14001 審査登録機関による外部審査を受審しました。2010年度は更新後第2回目のサーベイランス審査が行われ、その結果、緊急不適合0件、不適合0件、観察事項6件が指摘されました。2011年度に予定している4回目の更新監査に向け、改善策の検討・是正を行いました。



▲サーベイランス審査の様子

外部審査での指摘件数

	指摘の区分	件数
緊急不適合	該当無し	0件
不適合	該当無し	0件
観察事項	内部監査	1件
	マネジメントレビュー	1件
	緊急事態への準備及び対応	1件
	不適合並びに是正処置及び予防処置	1件
	力量、教育訓練及び自覚	1件
	運用管理	1件